

知求会 EU 支部ニュースレター Newsreel Word

2025年12月15日
第56号

EU 支部長:松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

イタリア 日本版メローニ、サナエ・タカイチ 2025.08.23 La voce del Patriota

この号の内容

1 イタリア 日本版メローニ

サナエ・タカイチ

2 EU 支部だより

ガラスの天井を破った女性

- ・日本初の女性首相
- ・最も保守色の強い政治家
- ・戦後の低姿勢な安全保障政策からの転換



- ・ついにサナエの番
- ・日本版メローニ
- ・日本のアイアンレディ
- ・二重の意味



イタリアの保守系メディア「La Voce del Patriota」は、高市早苗首相を「日本版メローニ」と報じた。記事は、日本初の女性首相である一方、自民党内でも最も保守色の強い政治家と位置づけ、日本の伝統を守りつつ「woke」やジェンダー平等の潮流に対抗する姿勢を強調する。防衛費を GDP 比 2%超に引き上げ、対米同盟を強化しようとする方針を、戦後の低姿勢な安全保障政策からの転換として評価している。

EU 支部だより —ガラスの天井を破った女性—

日本で初めての女性首相が誕生した。

このニュースは、イタリアでも決して小さく扱われていない。週刊誌の一つは「ついにサナエ・タカイチの番、日本初の女性首相」と題し、64 歳の彼女を「保守派の象徴」として紹介した。記事が強調するのは、「女性だから新しい」のではなく、「女性であると同時に、いっそう保守的な路線を打ち出す存在」だという点である。

別の右派系オンラインメディアは、高市氏を「日本版メローニ」と呼んだ。

長年保守政党が政権を握ってきた国で、「女性リーダー」を掲げながらも、国家や伝統、家族を重視する強いメッセージを打ち出す。その構図は、確かにイタリアの現在と重なって見える。ここには、「女性=リベラル」というステレオタイプから距離を取る、ヨーロッパ側のまなざしが垣間見える。

英語圏の報道もまた、高市氏を「日本のアイアンレディ」と呼び、サッチャーやメローニの系譜に位置づけている。

彼女の歴史認識や安全保障政策への評価は分かれるが、「ガラスの天井を破った女性」として讃えるトーンだけではなく、「日本政治の硬化」という文脈も同時に語られているのが印象的だ。

欧州から見れば、日本の「女性首相誕生」はジェンダー平等の前進であると同時に、保守ナショナリズムの流れの一部でもある、という二重の意味を持つのだろう。

一方、日本国内では、「ようやく女性が首相に」という感慨が語られると同時に、現実的な生活への影響、たとえば子育てやケアの負担、働き方や賃金のは正といった課題が、どこまで変わることかという不安もある。

イタリアの記事を読んでいると、「象徴としての女性首相」と「中身としての保守路線」のどちらに重心を置くかで、評価が大きく変わることをあらためて感じさせられる。

個人的に興味深いのは、日本とイタリアが、いずれも「男性中心の政治文化」と「急速な少子高齢化」という共通の背景を持ちながら、その象徴として「保守的な女性リーダー」を選んだという点だ。

変化への期待と、不安への補償。その両方を、一人の女性に投影する構図は、むしろ現代社会の不安定さを映しているのかもしれない。

日本で暮らす私たちは、「女性首相」という出来事を、単なる“記念日”として消費することもできるし、自分たちの社会が何を望み、何を恐れているのかを映す鏡として読むこともできる。イタリアをはじめとする欧州メディアの視線は、その鏡にもう一枚、別の角度を与えてくれている。

「女性だから」ではなく、「どのような価値観を持ち、どのような社会を描こうとしているのか」。日本初の女性首相をめぐる海外報道は、私たち自身が日本社会の現在地を見つめなおすための材料になっているように思う。(松原)